

観光振興とドローン活用テーマ

県内外の5大学の学生が美濃市の観光振興とドローン活用をテーマに、市の活性化策を提案する「サマースクール」が、同市で計3日間の日程で開かれ、若者目線の斬新なアイデアが発表された。(佐名妙予)

◇

サマースクールは、岐阜大地域協学センターが事務局を務める「ぎふCOC+事業推進コンソーシアム」が開催。コンソーシアムは、若者の地元定着率の向上を図るための事業や教育プログラムを展開し、岐阜大、中部学院大、中部大、名古屋学院大、日本福祉大が参加。5大学共通プログラムとして、毎年サマースクールを開いている。

今年は25人の大学生が6グループに分かれて参加。3、4日につだつの上がる町並みの視察やドローン体験、グループワークを行い、10日に成果発表を行った。各グループは、観光客数の推移や市の課題と強みな

若い視点で美濃市活性化

岐阜大や中部院大生 カヌー体験撮影など提案



市の観光振興策についてアイデアを発表した大学生
＝美濃市泉町、市文化会館

どを分析し、ターゲット層も明確にした上で、和紙とドローン、うだつの町並みを掛け合わせた観光振興策を提案。▽カヌー体験をドローンで撮影する▽美濃和紙の巨大オブジェを設置し、フォトスポットにする▽ドローンで町並みをライブアップ▽ドローンの免許合宿—といった観光プランと話をした。

武藤鉄弘市長や同市で「ドローンミュージアム&パーク」を運営するROBOZの石田宏樹社長らが審査員を務め、それぞれ市長賞と社長賞を選んだ。石田社長は「今すぐにも使えるアイデアがたくさんあり、とても刺激を受けた」と話した。